

平成 26 年 4 月 15 日

カリフォルニア大学サンタバーバラ校との先端機能材料分野における
包括的な研究開発提携の延長について

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社(本社:東京都千代田区、社長:石塚 博昭、以下「三菱化学」)は、このたび、カリフォルニア大学サンタバーバラ校(米国カリフォルニア州、以下「UCSB」)との間で、平成 13 年度より 13 年間実施してきた先端機能材料分野における包括的な研究開発提携を、平成 26 年 9 月からさらに 4 年間延長することで合意しました。

三菱化学と UCSB は、三菱化学が拠出した資金を元に、平成 13 年に UCSB 内に「三菱化学先端材料研究センター:Mitsubishi Chemical Center for Advanced Materials (MC-CAM)」(センター長:グレン・フレデリクソン教授(本年 4 月 1 日より株式会社三菱ケミカルホールディングスの CTO・常務執行役員に就任))を設置し、先端機能材料の分野で画期的な新材料、デバイス、加工・解析技術等の研究開発をおこなってきました。このたび延長する 4 年間において、三菱化学は UCSB に対し、研究開発資金として 400 万ドル(約 4 億円)を拠出する予定です。

これまでの研究開発を通じて、MC-CAM は 130 件の学術論文を投稿し、有機機能性材料の分野を中心に 100 件を超える特許を出願しており、MC-CAM は世界の大学研究機関の中でも、高い確率で知的財産を創出してきたと言えます。

MC-CAM の現在の重点研究開発領域は、LED 照明、有機太陽電池、有機半導体など、三菱ケミカルホールディングスグループの将来を見据えた高付加価値な先端機能材料分野です。その成果の一つとして、MC-CAM は、昨年度、高分子材料を用いた有機薄膜トランジスタの研究開発において世界最高レベルの電荷移動度を達成しました。

(<http://www.m-kagaku.co.jp/newsreleases/2014/20140219-1.html>)

今回、UCSB との包括的な研究開発提携を継続することにより、三菱化学は、グループの研究活動の科学技術レベルをさらに向上させ、効率よく多くの技術を生み出すとともに、これまでに得られた研究成果をスムーズに社内へ取り込み、事業化を目指していきます。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR 室

TEL : 03-6748-7140